

全国社会科教育学会第67回全国大会 シンポジウム
2018年10月20日 山梨大学

自己と社会の関係を相対化させる 地理授業構成論

—社会の中の自己, 自己の中の社会を吟味する地理授業—

中本 和彦

(四天王寺大学)

nakamoto@shitennoji.ac.jp

結論

Q 社会科は社会とどう関わるか？

→中等地理・歴史は社会とどう関わるか？

A: 日常的な自らの行為は、実は社会的価値の創造（社会形成）に関わっている、ということの自覚、すなわち、社会の中の自己を自覚する。あるいは自分自身の価値観や認識、行為・行動は、社会の影響を受けている、ということの自覚、すなわち、行為・行動の核心部にある自己の中の社会認識を反省し、自覚する。このような授業を行うことによって、社会が変化しようとも、社会と自己との関係を吟味し、行動する前に一度立ち止まり熟慮する、より成熟した主権者を育成することができる。つまり、社会に開かれた社会科教育とすることができる。

発表構成

- 1 社会の中の自己を吟味する地理授業
- 2 自己の中の社会を吟味する地理授業
- 3 社会参加の視点を通じた二つの地理
授業構成論の位置付け
- 4 まとめ

1 社会の中の自己を吟味する地理授業

—伊藤直哉・单元「原発とまちづくり」—

学習目標

(1) 巻町原発建設計画や計画中止という事象を、「原発反対派にとっての問題」→原発反対派の解決に向けての取り組み」→原発建設中止による新たな問題の発生」という社会形成のプロセスとしてとらえる。【第1時】

(2) 北陸・山陰地方と太平洋側地域の間に形成されるヒト・モノ・カネの移転システムを認識する。また、そのシステムのなかで巻町の空間的位置が受苦地域という社会的意味をもつことを理解する。

【第2・3時】

(3) ヒト・モノ・カネの移転システムの認識にもとづき、諸地域のまちづくりを評価する。【第4時】

(4) 社会における自己の社会的位置付けを理解する方法を身に付ける。【第1～4時】

授業展開(概要)

【第1時】 原発の建設計画や計画中止→構築される社会問題

MQ 君知事は何を問題にしていたのだろうか？

→MA 「新潟県はこれまで、人、米、電力と供給県として国の政策に協力し、犠牲を強いられてきた」のに、消費地の東京より電力料金が低いことに問題を感じている。つまり、供給地が受苦地域になっていることに問題を感じている。

【第2・3時】 人・米・電力の移転→ヒト・モノ・カネの移転システムの認識(空間構造の認識)

MQ 君知事の言う「人・米・電力とひたすら生産県としてとして国策に協力し、犠牲を強いられてきた」とはどういうことだろうか？

→MA 国は太平洋側地域を発展させる政策を採ってきた。この政策は明治時代の富国強兵・殖産興業政策、減反政策、全国総合開発計画など国の政策のことである。(中略)太平洋側が利益を得る受益地となる一方で、日本海側の新潟県は不利益を被る受苦地域となっていると考えている。

授業展開(概要)

【第4時①】 巻町のまちづくり, 吉田町や鯖江市のまちづくり

→まちづくりの評価 (空間構造認識の応用①)

MQ 巻町(吉田町や鯖江市)のまちづくりは, ヒト・モノ・カネの移転システムとどう関係しているか?

→MA 巻町は, (中略)原発に頼るまちづくりは, 太平洋側の生活や産業を支えるため, 電力を送電するという点で, ヒト・モノ・カネの移転システムを再生産するものだと言える。地元の製造業の誘致に力を入れた町では, (中略)これらのまちづくりはヒト・モノ・カネの移転システムからの脱却と言える。

授業展開(概要)

【第4時②】 受益地域に住む私たち

→社会問題における自己の反省的吟味
(空間構造認識の応用②)

Q 私たちは、原発建設問題にどのように関わっているだろうか。
今後どのように原発問題の解決に関わることができるだろう
か？

→A (例) 大阪に住んでいる私たちは、原発問題に関しては、受益地域に住んでいる受益者であると思う。私たちが使う電気を発電するために、福井県の原発周辺の住民、特に原発に反対する人々は、受苦者になっていると思う。(中略)私は、国のエネルギー事情や原発の安全性だけでなく、そのような歴史や現地の人々の感情も考えて、原発の問題を考えていきたい。

社会の中の自己の吟味

2 自己の中の社会を吟味する地理授業

—中本和彦・単元「大統領選挙から見るアメリカ」—

学習目標

アメリカ大統領選挙からアメリカ社会を探求することを通して、社会的な不安や不満(グローバリゼーション・ファティーグ)をもとに参加(支持)を求める言説について批判的に吟味し、日本社会と自己について反省的に吟味する。

- ① アメリカの大統領選挙の仕組みと現状(「トランプ現象」)について理解する。
- ② アメリカの民族, 工業, 貿易, 宗教, 国際関係についてのそれぞれの探求をとおしてアメリカ社会を探求し, 現在のアメリカ社会を解釈することができる。
- ③ アメリカ社会の理解を通してアメリカの政治参加・政治行動について探求し, 社会的な不安や不満と政治参加・政治行動の関係について理解する。
- ④ アメリカ社会と政治参加・政治行動の関係を英国のEU離脱問題に応用させ, 共通性(グローバリゼーション・ファティーグとの関係)を検証し, さらに日本の政治参加・政治行動にも応用させ, 吟味することができる。

授業展開(概要)

【第1時】 トランプ現象(過激な発言と支持) → 学習課題の提示

MQ なぜ、トランプ氏はこのような過激な発言をするのに、多くの人々から支持を得ているのでしょうか？

【第2・3時】 民族・工業・貿易・宗教・国際関係

→ アメリカ社会の探求とアメリカ社会の解釈

◎ 今のアメリカ社会はいったいどうなっているのでしょうか？

- なぜ、このようにヒスパニックが増えているのだろうか？
- 失業率は回復しているのに、なぜ、不安になるのだろうか？
- 貿易はどうなっているだろうか？
- なぜ、トランプ氏はローマ法王を批判するのだろうか？
- なぜ、トランプ氏は強い軍隊を望んでいるのだろうか？

授業展開(概要)

【第4時】 トランプ氏の支持層

→アメリカの「政治参加・政治行動」についての探求
～政治家と主権者～

○ なぜ、トランプ氏は人々から支持を得ているのだろうか？

◎ トランプ氏の発言は誇張や誤りがあるにもかかわらず、
なぜ、トランプ氏を支持するのだろうか？

→ 感情的になっていたり、理性的な判断をしたりしないで自分の不安や不満(グローバリゼーション・ファティグ)をトランプ氏が代弁し、解消してくれると期待し、支持しているのではないか。

※グローバリゼーション・ファティグ…エマニュエル・トッドが今日のグローバル化による各国で見られる自由貿易, 生活レベルの低下, 絶え間のない構造改革がもたらした経済的な不安定, 不安などを「グローバル化疲れ」として表現したもの。イギリスのEU離脱などもその好例である。

授業展開(概要)

【第5時①】 イギリスのEUA離脱

→アメリカの「政治参加・政治行動」の応用・検証①

—イギリスの「政治参加・政治行動」—

◎ このような「トランプ現象」のようなことは、他の国や地域では起こっていないだろうか？

◎ なぜ、多くの英国国民はEU離脱を望んでいないのに、離脱賛成の投票を行ったのでしょうか？なぜ、ファラージ党首のような守れない公約を見破ることができなかったのでしょうか？どんな人がEU離脱、EU残留を支持したのでしょうか？どんな不満や不安があったのでしょうか？調べてみましょう。

授業展開(概要)

【第5時②】 日本の政治的言説

→アメリカの「政治参加・政治行動」の応用・検証②

—日本の「政治参加・政治行動」—

◎ 日本でも、かつて「自民党をぶつつぶす」とか「大阪の形を一回全部解体して、あるべき大坂をつくりあげる」などと過激な言葉がとび、政治がワイドショー化された。人々には日本の社会に対するどんな不満や不安があるだろう？なぜ、政治家は過激な発言をするのだろうか？日本もアメリカやイギリスと同じようなことがあると言えるだろうか？

○「なぜ、そう言えるのか？」理由も教えてください。

(オープンエンド)

自己の中の社会認識の自覚, 反省

3 社会参加の視点を通じた二つの地理授業 構成論の位置付け

社会参加の類型(藤原孝章(2009))

A 消極的(潜在的)社会参加

B 象徴的・模擬的社会参加

C 積極的社会参加・社会行動

社会参加の類型(藤原孝章(2009))

A 消極的(潜在的)社会参加

ポストモダンな消費社会(モノよりも情報やサービスが価値を生み出す社会)では、大人・子どもに関わりなく(子どもが「未熟な大人」ではなく、一個の市民として)社会的行為主体となる。日常生活における消費行為は社会参加であり、社会的価値の創造、すなわち社会形成に関わっている。このことを反省的、自覚的に認識することが社会科の学習になる。

B 象徴的・模範的社会参加

社会の問題事象には、問題発生および解決に関わる当事者(ステークホルダー)が数多く存在している。当事者は、原因と結果に関与し、複雑で相互関連的な関係を持っている。地球環境や紛争・戦争の問題のように、直接的な関与が困難な場合もある。このような社会に関わろうとするときに有効なのが、シミュレーションやロールプレイである。社会問題に対してシンボリックにあるいは模範的に関わるという意味で象徴的・模範的社会参加といえる。

C 積極的社会参加・社会行動

公園づくり、ゴミ清掃など地域の課題やコミュニティの形成に子どもたちが直接関わるものである。募金や寄付もこれにあたる。いわゆる狭義の社会参加である。

社会参加の類型(藤原孝章(2009))

A 消極的(潜在的)社会参加

ポストモダンな消費社会(モノよりも情報やサービスが価値を生み出す社会)では, 大人・子どもに関わりなく(子どもが「未熟な大人」ではなく, 一個の市民として)社会的行為主体となる。日常生活における消費行為は社会参加であり, 社会的価値の創造, すなわち社会形成に関わっている。このことを反省的, 自覚的に認識することが社会科の学習になる。

社会参加の類型(藤原孝章(2009))

B 象徴的・模擬的社会参加

社会の問題事象には、問題発生および解決に関わる当事者(ステークホルダー)が数多く存在している。当事者は、原因と結果に関与し、複雑で相互関連的な関係を持っている。地球環境や紛争・戦争の問題のように、直接的な関与が困難な場合もある。このような社会に関わろうとするときに有効なのが、シミュレーションやロールプレイである。社会問題に対してシンボリックにあるいは模擬的に関わるという意味で象徴的・模擬的社会参加といえる。

社会参加の類型(藤原孝章(2009))

C 積極的社会参加・社会行動

公園づくり, ゴミ清掃など地域の課題やコミュニティの形成に子どもたちが直接関わるものである。募金や寄付もこれにあたる。いわゆる狭義の社会参加である。

3 社会参加としての社会科授業構成論

A 消極的(潜在的)社会参加

→a 自己の行為を反省的に吟味する

消極的社会参加授業論

B 象徴的・模擬的社会参加

→b 社会問題に対して模擬的に提案する

象徴的・模擬的社会参加授業論

C 積極的社会参加・社会行動

→c 地域やコミュニティの課題に対して行動する

積極的社会参加授業論

	a 自己の行為を反省的に吟味する消極的社会参加学習論	b 社会問題に対して模擬的に提案する象徴的・模擬的社会参加学習論	c 地域やコミュニティの課題に対して行動する積極的社会参加論
目標	消極的社会参加 (自己の反省)	象徴的・模擬的社会参加 (学校内での評価・提案)	積極的社会参加・社会行動 (地域やコミュニティでの提案・参加)
内容	他所・過去の社会問題と、 此所・今の社会問題およびそれに関する個人や集団の社会的行為	ローカル・グローバルな社会問題の原因や解決策およびそれらに関わる当事者の考えや価値観と政治的意思決定・提案 (ロールプレイやシミュレーションも含む)	地域やコミュニティの現実的課題とそれに関わる政治的意思決定・提案や活動への参加
方法	①現代の社会問題の把握 ②地理的・歴史的な社会問題の事実認識・価値分析 ③現代の社会問題における自己の反省的吟味	①社会問題の把握 ②社会問題の分析(原因の探求と当事者の価値分析) ③解決策の探求と模擬的な政治的意思決定 ④間接的な提案	①地域やコミュニティにおける課題の把握 ②課題の分析(原因の探求・調査) ③解決策の探求と現実的な政治的意思決定 ④地域やコミュニティに向けた直接的な提案・活動への参加 (サービスラーニングなど)

a 自己の行為を反省的に吟味する消極的社会参加学習論	
目標	消極的社会参加 (自己の反省)
内容	他所・過去の社会問題と、此所・今の社会問題およびそれに関する個人や集団の社会的行為
方法	①現代の社会問題の把握 ②地理的・歴史的な社会問題の事実認識・価値分析 ③現代の社会問題における自己の反省的吟味
授業例	○峯明秀：単元「田中正造のメッセージ」 ○伊藤直哉：単元「原発とまちづくり」

b 社会問題に対して模擬的に提案する象徴的・模擬的社会参加学習論

目標	象徴的・模擬的社会参加 (学校内での評価・提案)
内容	ローカル・グローバルな社会問題 の原因や解決策およびそれらに関わる 当事者の考えや価値観と政治的意思決定・提案 (ロールプレイやシミュレーションも含む)
方法	①社会問題の把握 ②社会問題の分析(原因の探求と当事者の価値分析) ③解決策の探求と模擬的な政治的意思決定 ④間接的な提案
授業例	○大杉昭英: 単元「現代日本の政治や経済の諸課題—『効率』と『公正』で考える 島のフェリー運航—」 ○志村喬: 単元「商業と生活～ショッピングセンターと地域社会」

	c 地域やコミュニティの課題に対して行動する積極的 社会参加論
目標	積極的社会参加・社会行動 (地域やコミュニティでの提案・参加)
内容	地域やコミュニティの現実的課題とそれに関わる政治 的意思決定・提案や活動への参加
方法	①地域やコミュニティにおける課題の把握 ②課題の分析(原因の探求・調査) ③解決策の探求と現実的な政治的意思決定 ④地域やコミュニティに向けた直接的な提案・活動へ の参加 (サービ斯拉ーニングなど)
授業例	○宮澤好春: 単元「桶川駅東口・商店街の活性化を 目指して～マニフェスト型まちづくり提案～」 ○唐木清志: 単元「駅前違法駐輪問題を解決しよう」

3 社会参加としての社会科

社会科の中で実践の可能性のより高いものは？

a 自己の行為を反省的に吟味する

消極的社会参加授業論

b 社会問題に対して模擬的に提案する

象徴的・模擬的社会参加授業論

c 地域やコミュニティの課題に対して行動する

積極的社会参加授業論

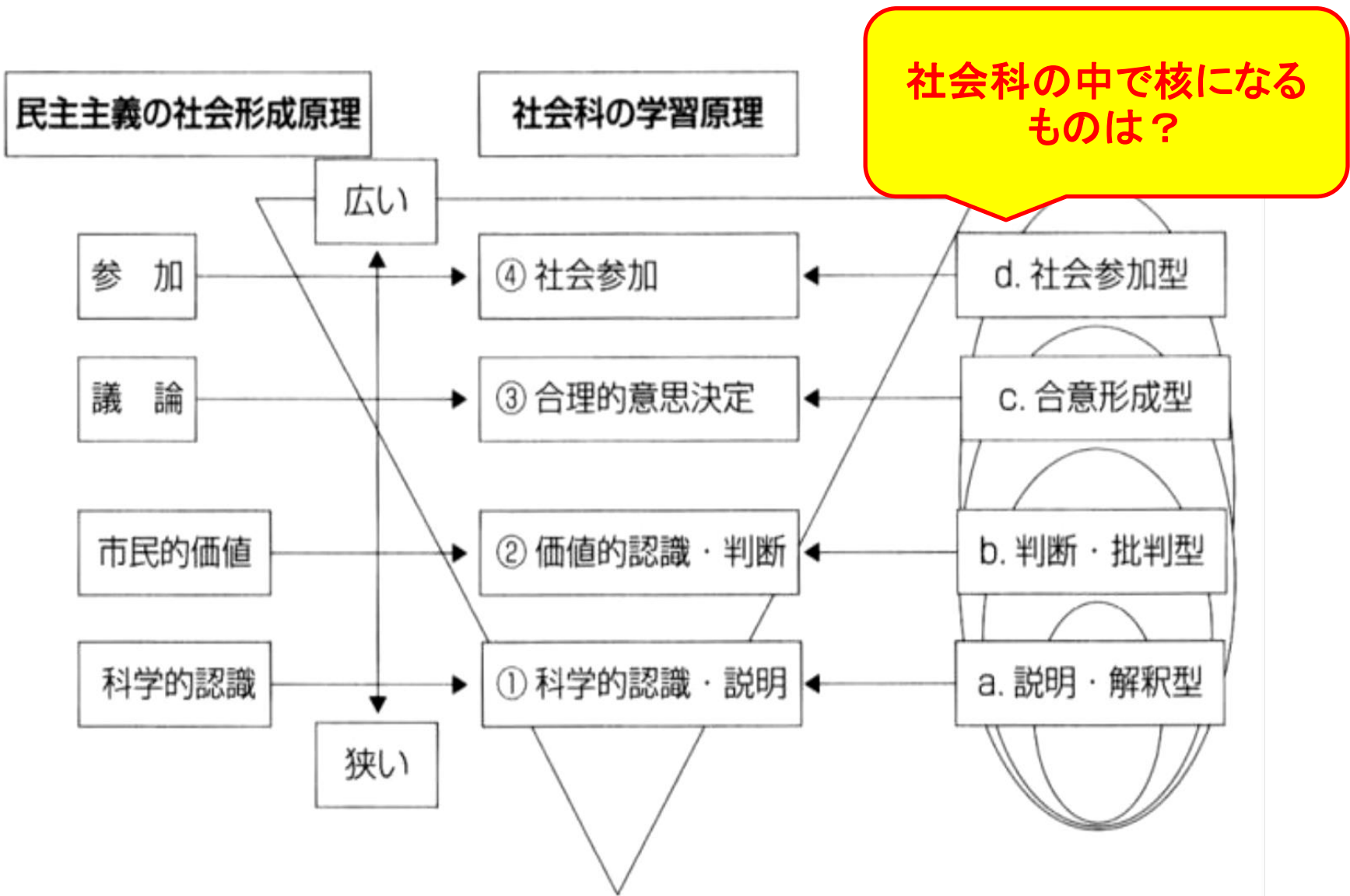


図 民主主義の社会形成原理および社会科の学習原理と
単元開発の枠組み (藤原孝章(2006)による。)

3 社会参加としての社会科授業構成論

a 自己の行為を反省的に吟味する

消極的社会参加授業論

b 社会問題に対して模擬的に提案する

象徴的・模擬的社会参加授業論

c 地域やコミュニティの課題に対して行動する

積極的社会参加授業論

3 社会参加としての社会科授業構成論

a 自己の行為を反省的に吟味する

消極的社会参加授業論



①社会問題構築型

→社会の中の自己を吟味する地理授業
伊藤直哉・单元「原発とまちづくり」

②社会認識反省型

→自己の中の社会を吟味する地理授業
中本和彦・单元「大統領選挙から見る
アメリカ」

①社会問題構築型

社会の中の自己を吟味する地理授業
伊藤直哉・单元「原発とまちづくり」

- ある状況を社会問題として意味付けている当事者を取り上げ、その根拠や原因を分析し、解決策や他者の行為などを評価することを通して自分自身も社会問題に内在的に関与していることを反省的に自覚させ、自己の問題として意味付け(社会問題として構築)させ、自ら主体的に社会を形成しようとする市民的資質の育成をめざす。

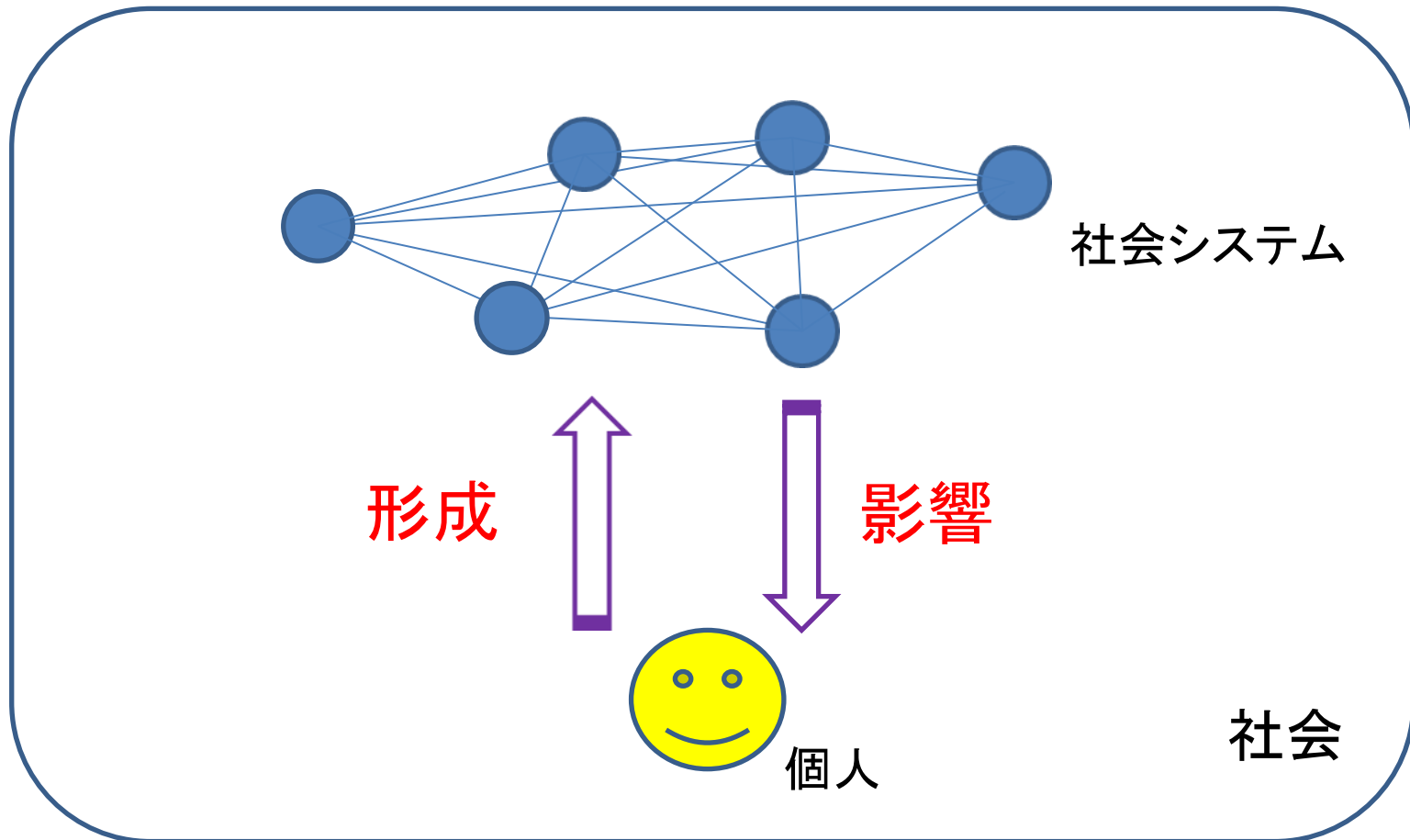
②社会認識反省型

自己の中の社会を吟味する地理授業

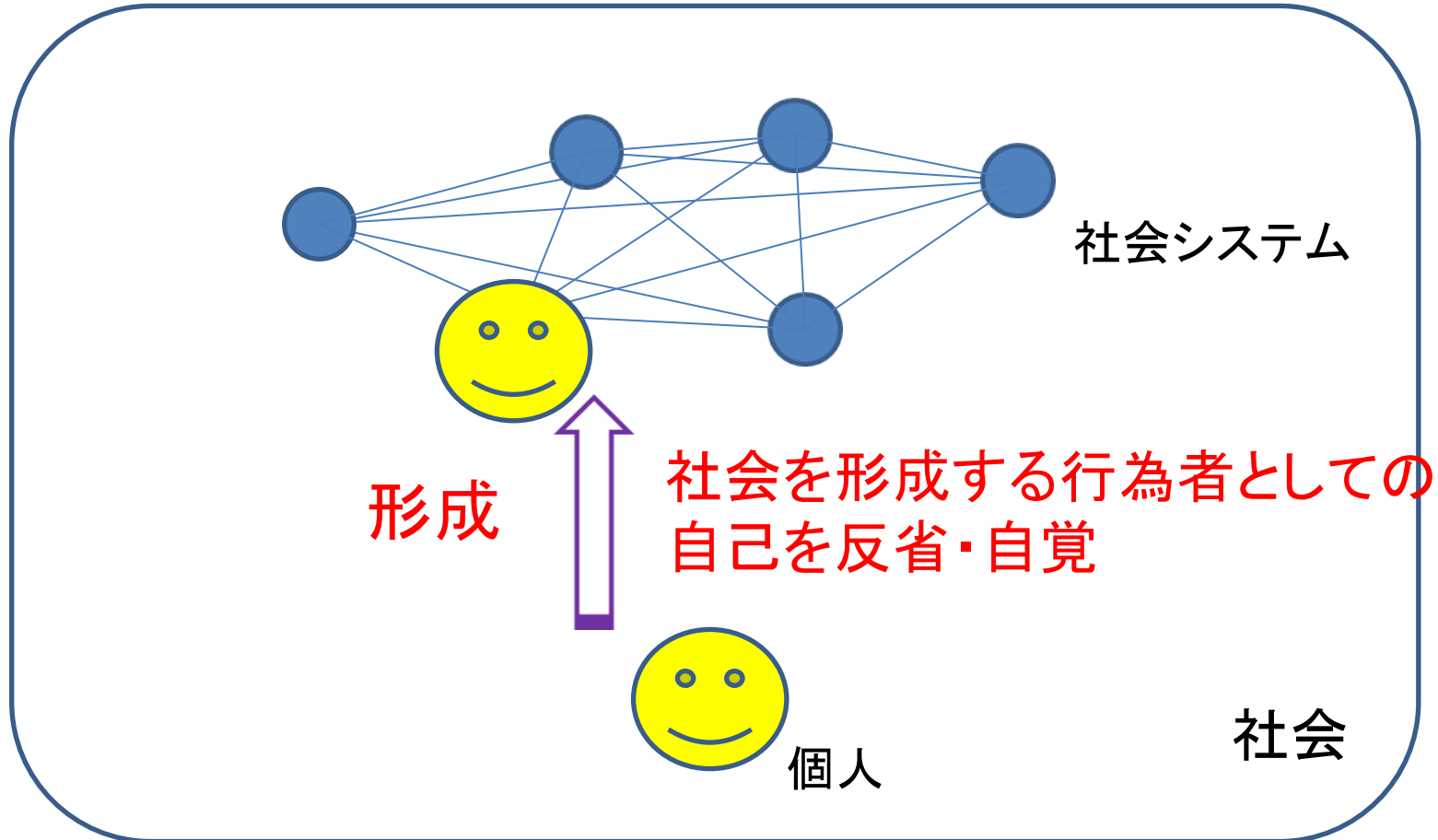
中本和彦・单元「大統領選挙から見るアメリカ」

- 日常のマスコミや様々な言説の中で知らず知らずのうちに自己の中に構築・形成された(社会化された)社会認識を、社会的事象の科学的探求によって批判的に吟味させ、科学的知識として変革・成長させ、もとの常識的な自己の社会認識(それに基づいた直感的・感情的な価値や行動)を反省し、相対化させ、行動する前に一度立ち止まり熟慮する、より成熟した市民的資質の育成をめざす。

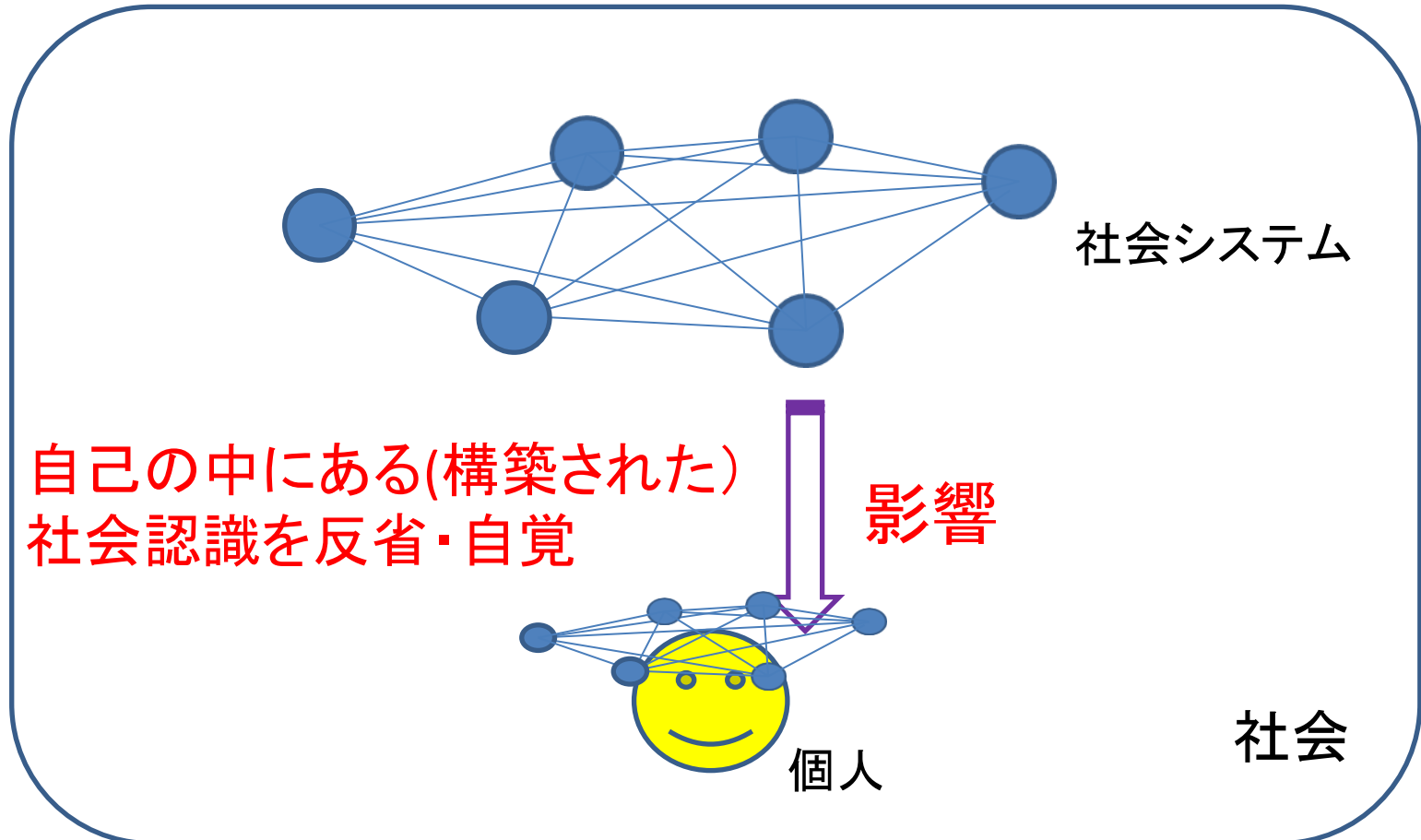
まとめ



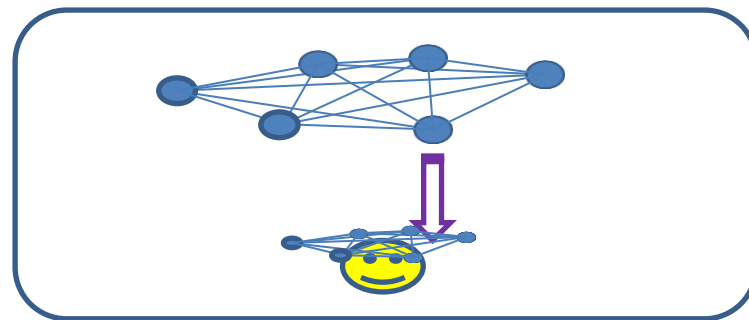
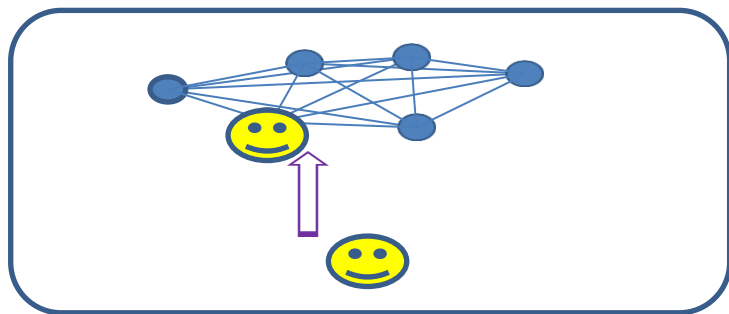
まとめ 社会の中の自己を吟味する地理授業



まとめ 自己の中の社会を吟味する地理授業



まとめ



地理・・・他所 → 此所
歴史・・・過去 → 今

} 自己と社会の相対化

自己と社会の関係を一度立ち止まって吟味する

情報化・グローバル化, 多様な価値観, 個人化・・・
社会の変化

→「ふつうは...」自然と...」・・・

まとめ

児玉康弘(2005)

「疑い迷う市民的資質，行動する前に自分たちの考え方や過去の行動について熟慮し反省する市民的資質，感情的・感傷的なナショナリズムやポピュリズムに駆り立てられない市民的資質，自由を放棄せず権威やカリスマに頼らない市民的資質，『探求』が育成しようとしているのはそのような成熟した社会の市民たちに必要な市民的資質である。」

自己と社会の関係を一度立ち止まって吟味する
→社会に開かれた社会科教育

主な参考文献

- ・伊藤直哉「空間構造『太平洋サスペンダー地帯』の認識形成—中学校社会科地理的分野小单元『原発とまちづくり』を事例に—」『社会科教育論叢』第46集, 2007年, pp.36-41
- ・中本和彦「自己の社会認識を反省させる中等社会科地理教育内容開発—成熟した主権者の育成をめざす单元『大統領選挙から見るアメリカ』を事例として—」『社会科研究』第86号, 2017年, pp.1-12
- ・児玉康弘「探求的授業構成論の再評価—市民的資質育成における社会科学の役割—」『社会科研究』第26号, 2005年, pp.9-10
- ・藤原孝章「アクティブ・シティズンシップは社会科に必要なか—社会科における社会参加学習の可能性を求めて—」『社会科研究』第65号, 2006年, pp.51-60
- ・藤原孝章編著『時事問題学習の理論と実践—国際理解・シティズンシップを育む社会科教育—』福村出版, 2009年
- ・峯明秀「意思決定力を育成する中学校社会科歴史授業—单元『田中正造へのメッセージ』の場合—」『社会科研究』第50号, 1999年, pp.271-280
- ・大杉昭英「社会認識体制の成長をめざす社会科・公民科授業—科学理論と倫理的判断基準の探求を通して—」『社会科研究』第60号, 2004年, pp.11-20
- ・志村喬「持続可能な地域社会形成力を育む中学校地理的分野の学習材開発—『フードデザート問題』の探究—」, 中山修一・和田文雄・湯浅清治編『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院, 2011年, pp.98-110
- ・「桶川のまちづくり」, 唐木清志著『子どもの社会参加と社会科教育—日本型サービス・ラーニングの構想』東洋館出版社, 2008年, pp.137-152
- ・唐木清志「社会参加としての社会科授業づくりと評価」, 全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, 2011年, pp.41-44
- ・公益財団法人日本教材文化研究財団編『社会参加を視点とした中学校社会科の教材と評価に関する研究』(代表原田智仁), 2016年
- ・三上剛史『社会の思考—リスクと監視と個人化—』学文社, 2010年